

ジャイアントパンダのハズバンダリートレーニングについて

神戸市立王子動物園 梅元良次、吉田憲一

ジャイアントパンダの採血などの健康管理については、麻酔下で行ってきたが、2011年からハズバンダリートレーニング（以下「トレーニング」）を開始し、現在では無麻酔下で採血も行えるようになった。

今回は、当園で実施しているトレーニングによる日常的な健康管理について報告する。

対象個体は、2000年7月に四川省の臥龍大熊猫保護研究中心から来園した雌（愛称：旦旦、1995年9月16日生まれ）であった。

トレーニングには、専用のケージ（長さ150×幅150×高さ150cm）を使用した。採血には、専用ケージに接続したスクイズケージ（長さ112×幅107×高さ130cm）を使用した。スクイズケージには採血専用の開口部や台などを設置した。なお、トレーニング時にスクイズケージを狭めることは行わなかった。

トレーニングは、飼育担当者1～2名により、毎日17時から5～10分間実施した。健康診断のため、獣医が毎週金曜日と日曜日のトレーニングに立ち会った。トレーニングにおける強化子には、普段から給餌している餌の中で最も嗜好性の高いリンゴを使用している。

日常の健康管理として、目、鼻、口内、歯、歯茎、耳の異常の有無を観察し、必要に応じて触診や直腸温測定、膣スメア採取（発情期のみ）、採血（3ヵ月毎）を実施した。

今後の課題としては、発情や偽妊娠時には食欲が低下するため、強化子であるリンゴに興味を示さなくなり、通常は可能なトレーニングが実施できない場合がある。このため、食欲低下時でも興味を示すような食物を探すことも必要と考える。また、餌以外のものを強化子とするなど、食欲のない時にも実施可能なトレーニング方法も考えなければならない。また、今後はトレーニングによる尿の採取にも挑戦したい。

トレーニングの利点としては、個体に全身麻酔の負担をかけずに、必要に応じて1年間に何度も検査や採血などの健康管理をおこなえるところにある。日常的な触診、聴診などの実施により、病気の予防や早期発見に非常に有効であるのはもちろん、エンリッチメントとして個体のストレス解消にも役立っていると考えられる。